

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は110円の大台を意識

〔1月13日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）			1月6日～1月10日		
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	108.07	109.60(10)		107.65(8)	109.57 +1.48
ユーロ・ドル	1.1168	1.1206(6)		1.1093(9)	1.1106 -0.0055
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		終 値
日経平均株価	23,850.57		+193.95		日本10年債利回り 0.003 +0.014
ダウ平均株価	28,956.90		+322.02		米10年債利回り 1.855 +0.066
=====					
<来週の主要経済統計等>					
1 3 日 米 1 2 月財政収支					
1 4 日 日本 1 1 月経常収支					
中国 1 2 月貿易収支					
米 1 2 月消費者物価指数					
1 5 日 英 1 2 月消費者物価指数、英 1 2 月生産者物価指数、英 1 2 月小売物価指数					
ユーロ圏 1 1 月鉱工業生産指数、ユーロ圏 1 1 月貿易収支					
米 M B A 住宅ローン申請件数					
米 1 2 月生産者物価指数、米 1 月 N Y 連銀製造業景気指数					
米中通商協議第一弾合意の調印式					
1 6 日 日本 1 1 月機械受注高					
独 1 2 月消費者物価指数確報値					
米 1 2 月小売売上高、米 1 2 月輸入価格指数					
米 1 月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数					
米 1 1 月対米証券投資					
1 7 日 中国第 4 四半期国内総生産（ G D P ） 、中国 1 2 月小売売上高					
中国 1 2 月鉱工業生産指数					
スイス 1 2 月生産者・輸入価格					
ユーロ圏 1 1 月経常収支					
英 1 2 月小売売上高					
ユーロ圏 1 2 月消費者物価指数確報値					
米 1 2 月住宅着工・許可件数					
米 1 2 月鉱工業生産・設備稼働率					
米 1 月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値					

【前回のレビュー】ドル円は109円接近では買いに支えられる展開となりそうだが、109・70円台では売り圧力に押されやすくなっており、110円手前での上値の重さが続くと思われる。このため、ドル円は109円台で落ち着いた動きが見込まれるとした。

【ドル円は年末年始で大きな振幅】

ドル円は年末年始で大きな振幅を見せた。昨年2019年1月2日の市場でフラッシュクラッシュ気味にドル安円高が一気に進行したこともあり、警戒感から円買いの動きが一時強まる展開に。109円台半ば前後でのみ合いからじりじりと値を落とし、

東京勢不在の大みそかに108円台半ば割れまで。

12月31日のNY市場でトランプ大統領が米中通商協議第一弾合意について、1月15日に米ワシントンで調印式を行うという予定を示したこともあり、年明けにドル円は108円80銭台までと、少し値を戻す場面が見られた。

しかし、2日の海外市場でトランプ大統領の指示による米軍のドローン攻撃によりイラン革命防衛隊コッズ部隊のソレイマニ司令官が死亡と報じられ、一気にドル安円高の動きに。中東情勢の緊迫化懸念が広がり、リスク回避の円買いが強まる展開となった。ドル円は週明けまで円高の進行が続き107円70銭台まで値を落とす場面が見られた。

その後、ポジション調整などで108円台半ばまで値を戻していたが、日本時間8日朝にイラン革命防衛隊による米軍が駐留するイラン基地へのミサイル攻撃が報じられ、再びリスク警戒感からの円買いが強まる展開に。ドル円は6日の安値を割り込み、107円65銭近辺まで値を落とす展開が見られた。

しかし、円高進行もここまで。イランのミサイル攻撃による米軍の人的被害がなかったこともあり、トランプ大統領はこれ以上の軍事的な対応に消極的な姿勢を示し、全面的な軍事衝突への懸念が後退。中東情勢の緊迫化後の下げ分を解消するだけでなく、年末からの下げ分を解消する動きとなり、109円台半ば超えまで買いが入る展開が見られた。

9日には中国が、米中通商協議第一弾合意について、13日から劉鶴副首相を代表とする政府関係者・中国企業関係者で訪米し、15日に調印式を行うと発表。昨年末に米政府が明らかにしたスケジュールを中国が正式に認めた格好となった。

これまで中国側からスケジュールについての言及がなかったことで、市場では調印の実現を危ぶむ動きも見られたが、この発表で安心感が広がり、ドル買い円売りの流れが加速した。

いったん107円台まで値を落としたことで、これまで市場で積みあがったドル買いポジションが整理されたこともあり、上値をトライしやすい地合いとなった面も。

中東情勢への警戒感が残るが、全面的な軍事衝突への動きは回避されとの見方が広がっている。同問題が今後相場に与える影響は限定的か。

世界経済にとって大きなリスクである米中貿易摩擦問題が、15日の第一弾合意調印で一段落。中国による米製品・農産物・サービスなどの輸入拡大(17年実績の1700億ドルを少なくとも2000億ドル上回る数字)がどのような形で約束され、今後の実現を期待させるものになるのかなどの合意内容の詳細にもよるが、ドル円にとっては大きな買い材料となる。

109円後半から110円にかけては売り注文が並んでいるとみられ、一本調子での上昇は難しいが、振幅を交えながら、上値トライを期待する流れは続きそう。

ドル円の目先の予想レンジは、109.00～110.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、13日に米12月財政収支、14日に日本11月経常収支、米12月消費者物価指数、15日に米MBA住宅ローン申請件数、米12月生産者物価指数、米1月NY連銀製造業景気指数、16日に日本11月機械受注高、米12月小売売上高、米12月輸入価格指数、米1月フィラデルフィア連銀景気指数、米新規失業保険申請件数、米11月対米証券投資、17日に米12月住宅着工・許可件数、米12月鉱工業生産・設備稼働率、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルも年末年始で振幅】

年末にかけてのドル全面安基調もあり、ユーロドルは12月後半に付けた1.1060台から年末時点で1.1240近辺まで上昇。

その後は振幅を交えながら1.11割れまで値を落とす展開となった。中東情勢緊迫化を受けて対ドル、対円でユーロ売りが入ったことが、ユーロの大きな下げにつながった。

1.10台を積極的に売り込む勢いは見られないが、米中の調印式前後でドル買いの動きが強まるようだと、レンジが切り下がり1.10台後半を中心としたレンジ取引に。1.1150が重くなるようだと昨年11月以来の1.10割れも視野に入ってくる。

ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1025～1.1175ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に中国12月貿易収支、15日に英12月消費者物価指数、英12月生産者物価指数、英12月小売物価指数、ユーロ圏11月鉱工業生産指数、ユーロ圏11月貿易収支、16日に独12月消費者物価指数確報値、17日に中国第4四半期国内総生産（GDP）、中国12月小売売上高、中国12月鉱工業生産指数、スイス12月生産者・輸入価格、ユーロ圏11月経常収支、英12月小売売上高、ユーロ圏12月消費者物価指数確報値などがある。

MINKABU PRESS 山岡和雅

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。